

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 1 部門第 1 区分  
 【発行日】平成 18 年 7 月 13 日 (2006.7.13)

【公表番号】特表 2002-514397(P2002-514397A)  
 【公表日】平成 14 年 5 月 21 日 (2002.5.21)  
 【出願番号】特願 2000-547969(P2000-547969)  
 【国際特許分類】

**C 1 2 N 15/09 (2006.01)**  
**A 6 1 K 31/70 (2006.01)**  
**A 6 1 K 39/39 (2006.01)**  
**C 0 7 H 21/04 (2006.01)**  
 A 6 1 K 45/00 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A  
 A 6 1 K 31/70  
 A 6 1 K 39/39  
 C 0 7 H 21/04  
 A 6 1 K 45/00

【手続補正書】  
 【提出日】平成 18 年 5 月 8 日 (2006.5.8)  
 【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】特許請求の範囲  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 抗原特異的免疫応答を誘導するための医薬の製造のための、少なくとも 8 ヌクレオチドを有する C p G オリゴヌクレオチドの使用であって、抗原特異的免疫応答を生成するために、該 C p G オリゴヌクレオチドは、被験体に投与され、該被験体は、該 C p G オリゴヌクレオチドが該被験体に投与された少なくとも 3 日後に抗原に曝露される、使用。

【請求項 2】 前記抗原が、前記 C p G オリゴヌクレオチドが前記被験体に投与された少なくとも 4 日後、少なくとも 7 日後、少なくとも 15 日後または少なくとも 30 日後に投与される、請求項 1 に記載の使用。

【請求項 3】 前記抗原が抗原をコードする核酸である、請求項 1 に記載の使用。

【請求項 4】 前記抗原が、細胞、細胞抽出物、タンパク質、ポリサッカライド、ポリサッカライド結合体、脂質、糖脂質、炭水化物、ウイルス抽出物、ウイルス、細菌、真菌、寄生生物およびアレルゲンからなる群より選択される、請求項 1 に記載の使用。

【請求項 5】 前記抗原がアレルゲンである、請求項 1 に記載の使用。

【請求項 6】 前記抗原が感染性細菌、感染性ウイルス、および感染性真菌からなる群から選択される感染性生物体に由来する、請求項 1 に記載の使用。

【請求項 7】 前記被験体が前記抗原に能動的に曝露される、請求項 1 に記載の使用。

【請求項 8】 前記抗原がコロイド分散系と組み合わせて送達される、請求項 7 に記載の使用。

【請求項 9】 前記コロイド分散系が、高分子複合体、ナノカプセル、マイクロスフェア、ビーズおよび脂質ベースの系からなる群から選択される、請求項 8 に記載の使用。

【請求項 10】 前記脂質ベースの系が水中油型エマルジョン、ミセル、混合ミセル

およびリボソームからなる群より選択される、請求項 9 に記載の使用。

【請求項 11】 前記抗原と組み合わせてアジュバントが投与される、請求項 7 に記載の使用。

【請求項 12】 前記被験体が前記抗原に受動的に曝露される、請求項 1 に記載の使用。

【請求項 13】 前記被験体が癌を発症する危険性がある、請求項 12 に記載の使用。

【請求項 14】 前記被験体がアレルギー反応を発症する危険性がある、請求項 12 に記載の使用。

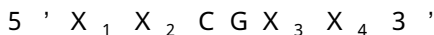
【請求項 15】 前記被験体が喘息である、請求項 12 に記載の使用。

【請求項 16】 前記 C p G オリゴヌクレオチドが 8 ~ 100 ヌクレオチド長である、請求項 1 に記載の使用。

【請求項 17】 前記 C p G オリゴヌクレオチドがホスホロチオエート修飾またはホスホロジチオエート修飾であるリン酸骨格修飾を含み、該リン酸骨格修飾が好ましくは該 C p G オリゴヌクレオチドの 5' 末端または該 C p G オリゴヌクレオチドの 3' 末端で生じる、請求項 1 に記載の使用。

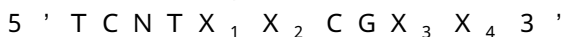
【請求項 18】 請求項 1 に記載の使用であって、

ここで前記 C p G オリゴヌクレオチドは少なくとも以下の式を含む配列を有し：



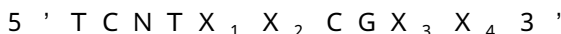
ここで、 $\text{X}_1 \text{ X}_2$  は、G p T、G p G、G p A および A p A からなる群から選択されるヌクレオチドであり；そして  $\text{X}_3 \text{ X}_4$  は、T p T、C p T および T p C からなる群から選択されるヌクレオチドであるか；または

ここで前記 C p G オリゴヌクレオチドは少なくとも以下の式を含む配列を有し：



ここで、 $\text{X}_1$ 、 $\text{X}_2$ 、 $\text{X}_3$  および  $\text{X}_4$  は、ヌクレオチドであり、N は、約 0 ~ 25 のヌクレオチドから構成される核酸配列である、使用。

【請求項 19】 請求項 1 に記載の使用であって、ここで前記 C p G オリゴヌクレオチドは少なくとも以下の式を含む配列を有し：



ここで、 $\text{X}_1 \text{ X}_2$  は、G p T、G p G、G p A および A p A からなる群から選択されるヌクレオチドであり、そして  $\text{X}_3 \text{ X}_4$  は、T p T、C p T および T p C からなる群から選択されるヌクレオチドであり、そしてここで N は、約 0 ~ 25 のヌクレオチドから構成される核酸配列である、使用。